資料１

最終答申の検討に向けた意見集約シートまとめ

【設問1】

中間答申に関して追加、修正、変更すべき点
（意見のある項目のみ自由回答）

(1) 「文化」か「観光」か

意見の詳細内容
・中間答申でも「祭り町の人々が自らの文化を楽しみながら、将来に受け継いでいくことを第一に考えるべき」と記載があるように、文化の上に観光が成り立つという優先順位はぶらすべきではないと思います。 ・「文化」か「観光」かという二者択一ではないのではないか。 祭り町はもとより、多くの市民が、長い歴史を持つ、故郷伊賀が大切にすべき文化として、誇りと愛着を持つことが大切なのではないか。 （上記を踏まえた修正案：２点目） 祭り町はもとより、多くの市民が、長い歴史を持つ、伊賀が大切にすべき文化として、誇りと愛着を持って、皆が楽しみながら将来に受け継いでいくことを第一に考えるべきです。 ・「文化」か「観光」か　というタイトルを変更した方が良いように思います。「文化」と「観光」の統合といったタイトルの方が、誤解を与えずに済むのではないでしょうか。

(2) 無形民俗文化財（行事）としての維持・継承

意見の詳細内容
・文化を維持、継承していくためには「内部（地元住民）の風土醸成」と「外部（観光客やお手伝い）の啓蒙」の２つの軸で考えていく必要があると思います。内部の風土醸成については、学校教育との連携を通じて幼いころから「生活の中にだんじりがある」状態をより強くしていく必要があると考えております。今回は行事が行われる３日間と行事以外の 362 日間で分けて議論をしましたが、本来はそれぞれが有機的につながっている状態が理想です。例えば青森県のねぶた祭りでは、ねぶたが終わった次の日から翌年のねぶた準備を始めて、その期間は学校などで「ねぶた絵コンテスト」などを実施することで、生活の導線の上にねぶたが乗ってくる状態を設計しています。このように、行政・教育などが横断的に連携していく必要があると判断しております。 また、外部の啓蒙については、地元住民と「だんじりはこうあるべき」という理想の姿を明確に言語化できれば、そこに共感できる方を呼び込んでいくことができると考えております。例えば下呂市の「龍神まつり」では、祭りの文化や意義に共感できる方向けに「宿泊に法被と下駄」などを貸し出して、山車を引くプランを作り、それが大変好評だったという事例がありました。だんじり祭りについて、まず地元の方々が当事者意識をもってこういう文化を残したいと定義し、

意見の詳細内容
それを地元の中であまねく共有されている状態を作ることが大事であると考えます。 ・祭り町関係者との意見交換を聞いて、行政や関係者の思いと祭り町の思いがかみ合っていない部分もあるのではないかと感じた。また、地域のコミュニティにとって世代を超えた関係性を繋いできた祭りの意義はもっと重要視されるべきであり、伊賀の村々が中心市街地の文化を再認識すること、中心市街地の人々が村々の文化を互いに理解しあうことが必要ではないか。 （上記を踏まえた修正案） １点目 祭り町以外の人を担い手として確保する取組→祭り町以外の人も担い手として参画できる取組 ３点目 祭りに関心を持つ多くの市民が行事に参画しやすい環境を、行事に関係するすべての関係者が協力して創りあげていくとことが大切です。 ・人口減少がみるみるうちに進み、まつりに関係する各町だけで維持継承するには限界があります。国からの補助金もですが、それに頼らず持続可能な運営が求められるのだろうと思います。 ・伊賀市を好きになって伊賀市に移住してきた人たちをはじめとして、旧郡部の市民や子どもたちなど、広く市内外の人たちに上野天神祭を知っていただき、そのファンになっていただくことで、担い手（曳手や囃子方など）の確保につなげていくというストーリーを、総論的に明確に記した方が良いように感じました。 その総論の下に、知らせ方の各論として、体験型の講座、子どもたちの見学・体験、インターネット上でのバーチャルな体験、学芸員さんの採用による説明の充実など、様々な方法があること、また、担い手の確保につなげる方策の各論としても、紹介マッチング機能、市職員や三重大留学生などにとどまらない、参加を希望する組織・団体の募集する仕組みなど、様々なことが有ることを、付記すると分かりやすいのではないでしょうか。 各町の囃子を、映像記録に残しておくことも、文化財の維持・継承という観点から、書き込んでおけると良いかと思います。

(3) 有形文化財としての保全・保護

意見の詳細内容
・先日、地元の方々との会話でも一部触れられましたが、山車などの貴重な文化財が地元住民の近くにあることが大事なのか、それとも将来にわたり中長期で状態よく保存されるのが大事なのか優先順位をつけるべきと考えております。両立は難しいとお見受けしており、個人的には後者が重要と考えます。 ・祭り町関係者との意見交換でも、大きな問題はないと感じた。 ・だんじり本体や、幕（引退幕も含めて）などの、傷みにくい保存のあり方を検討していく必要があるということを追記してはどうでしょう。 また、レプリカの作成も検討すべきということも、追記しても良いかもしれません。

(4) 文化振興によるまちづくりの全体像

意見の詳細内容
・祭り町関係者との意見交換を聞いて、現在のだんじり会館の運営は、専門的な学芸員の不在だけでなく、祭り町との意思疎通も不足していたのではないかと感じました。理想としては、学芸員が核となり、運営主体と祭り町を繋ぎ、まちづくりに貢献していくことが望ましいのではないでしょうか。 （上記を踏まえた修正案） ３行目から 手法に拘ることなく、行政、地域、関係団体が協力して、市全体の文化振興の観点から ・祭りという文化が、地域の生活と密接不可分であることを明記するとともに、まず第一義的には、市民の人たち（必ずしも祭り町に住んでは居なくても主体的に祭りを担う意思のある市内外の方々）に、自分たちで祭りを支えるという意識を持っていただくことが肝要で、その前提があって初めて、行政からの一定の文化振興策が機能し得るということは、はっきりさせておいた方が良いと思います。行政への丸投げでは、文化振興は出来ませんので。 また、伊賀市として、振興すべき文化は上野天神祭だけではないので、まちづくりの全体像を見据えた上で、市内他地区の祭りや、俳句（芭蕉）などの他の文化的な取組みとのバランスも考慮し、市による文化振興策が、財政的に過大な負担となって未来の市民を苦しめないようにする必要があるということも、明記しておいてほしいです。

(5) 施設の運営（維持管理）及び地理的な視点からのあるべき姿

意見の詳細内容
・これまでに皆さまが申し上げていただいているため、特段新しく主張すべきものはないと考えます。ただ、以下 3 点で整理して考える必要があると思います ①だんじり文化を維持するうえで必要な機能は何か ②その機能にダブり、被りがないか ③ダブり、被りがある場合最も有意義な選択肢は何か これらが維持工数・効果（あるべき理想像から逆算して最短距離で進められるように）・予算の 3 観点で検討されることが大事だと思います。 ・祭り町関係者から、公共施設最適化計画において縮小の方針になっているという発言があったが、この点、市及び市議会はどのように考えているのだろうか。最近、公共施設最適化計画を見直してほしいという意見も耳にすることが多い。本来なら、この問題は議決された公共施設最適化計画をベースに考えるべきだと思うが、いかがなものか。 （上記を踏まえた修正案） 事務局の意見もお聞きしながら、考えていきたい。 ・魅力的な施設であれば、どこにでも人は訪れます。線路の南か北かの問題の前に、現在の場所でも魅力的な施設であれば、運営できていたはずです。問題は立地ではないと考えます。 ・だんじり会館が、現状、有形文化財としてのだんじりの保全上適切な形ではないことや、学芸員もおらずだんじりの文化的・歴史的・社会的な価値の発信を十分に行いえていないこと、旧郡部の市民にとって縁遠い施設になってしまっていて全市民のための施設となっていないこと等を鑑みるとき、現在の施設のまま維持することは適当ではないということは、結論として明記しておいても良いのではないでしょうか。 その上で、他の文化的な施設（美術博物館？）への機能統合や、市内の他地域の祭り文化も合わせて発信できるような新たな取組みのあり方の、検討が求められること、現状のまま施設を維持しないのであれば、現地の有効な活用策（売却の可能性も含めて）の検討も求められることも、明記しておくと良いと思います。

(6) その他、全体を通して

意見の詳細内容
・あるべき姿と将来の求められる姿を様々な角度から考察すると、現在の建物を修繕し、だんじり文化の保護育成、まちなか観光・回遊の起点と伊賀の歴史・文化の情報提供の場としての機能を持たせ、官民の持てる力を合わせ持続可能な施設を目指すという方向が近い将来においては現実的であると思われる。複数の機能を持つ施設とし、その役割を担う組織・団体等に分割して業務委託することが望ましい。(現会館に対する枠組み、条例を変え、名称の変更も検討する。伊賀上野観光協会・いがうえの語り部の会・美術文化保存会等に会館運営に関する意向調査も実施する。)また、周辺の施設として現在進行している美術博物館の建設検討結果や公平性という観点から市内文化施設「ふるさと会館いが」等の今後の運営に関するあり方も参考にしたい。 ・赤字経営の状態を放置し施設のあり方を検討するのに、ここまで時間を要していることに、そもそも驚愕したのが第一印象です。そして赤字回復のために奮闘した形跡もなく動きも見受けられない状態であったことも。このような体制を変えていかないと、新たに場所を移して刷新しても同じ運命を辿るだけだと思っています。まつり町の中には、そのような思いを吐露される方もいましたが、激しく同感です。 まつりを中心となって運営している方々は、伝統を継承するために使命感を持って取り組まれている熱い方々ばかりです。損得や利益関係なく動いていらっしゃいます。まつりを運営している核となる中心人物が高齢になり退いたあと、同じような情熱を持って引き継いでいける人物がいるのか、と疑問です。3日間で15万人以上を集客できるイベントは他にないので、天神祭を大いに活用した観光振興に期待しています。人口減少が加速していく中で、まつりも縮小していかざるを得ないのか、どうなのか、それでいいのか、今が要なんだろうなと感じています。 だんじり会館のあり方検討が主なミッションでしたが、天神祭の今後について考えさせられる委員会でした。まつりを観光資源として市としてどのようにサポートしていくのか、一市民として継承に携われるのか大いに考えました。

【設問2】

ダンジリ行事を維持・継続していくための活動として、必要・重要である項目

（複数選択可　有効回答者数 5 人）

図　項目別の集計結果

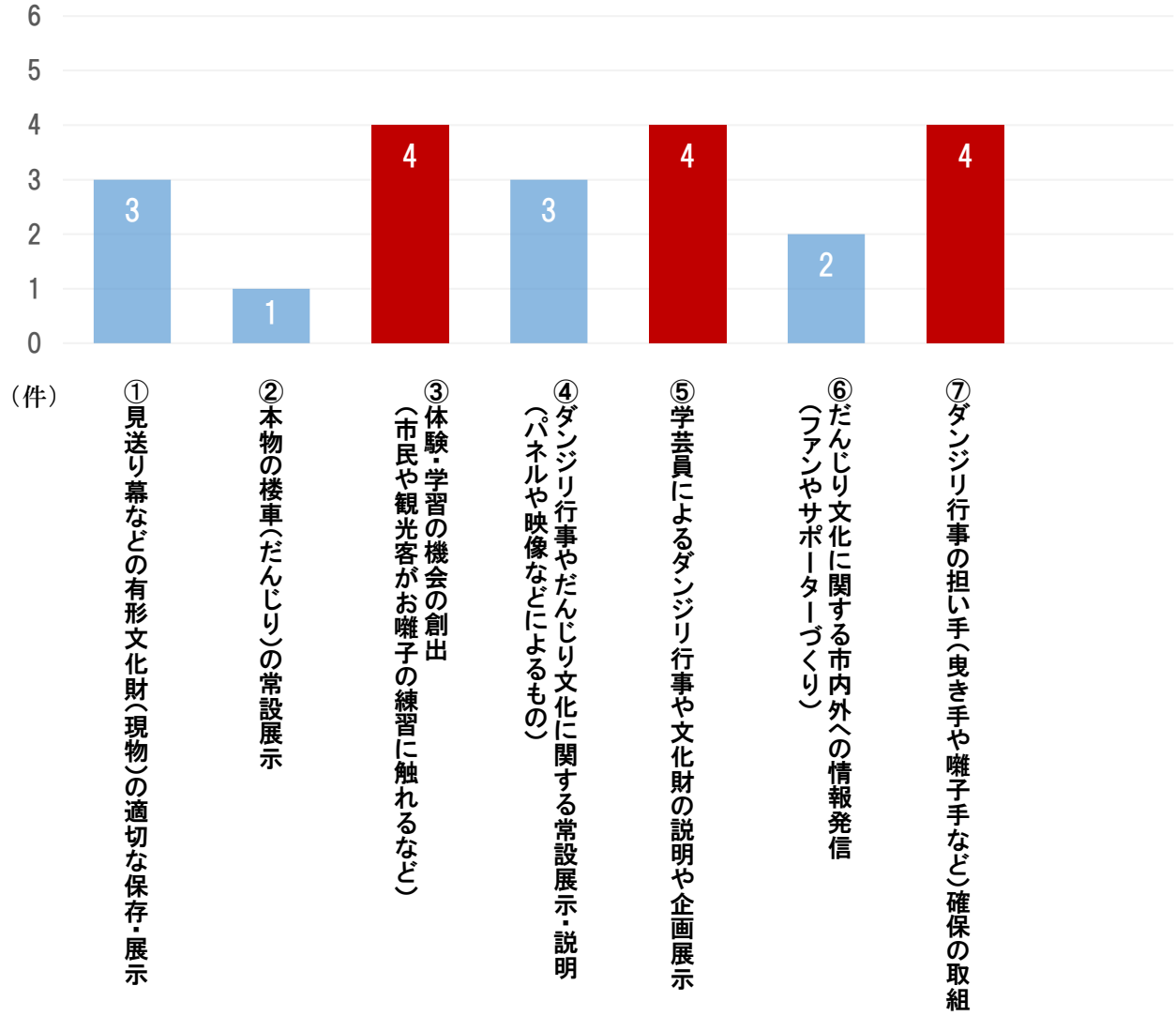


表　具体的な理由

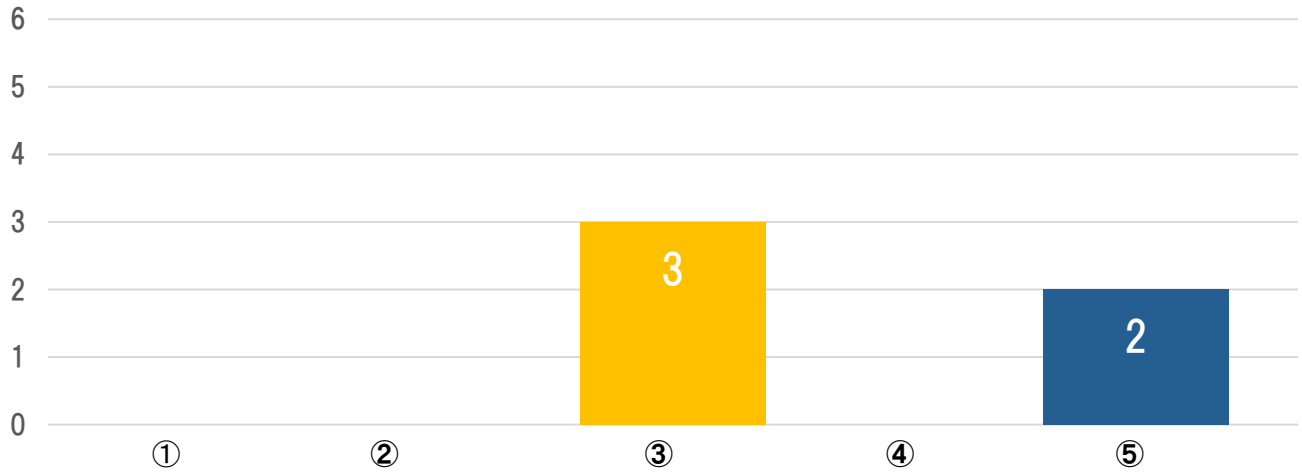
意見の詳細内容
だんじり文化が地元に根付いて継続していくために過不足なく必要なのは①・③・⑦の３つであると考えるためです（他は代替手段が浮かんだため選択しませんでした）
① 有形文化財は、長い歴史を経て継承されてきたものであり、資料の特性にあわせた適切な保存が必要である。有形文化財の展示は、普及啓発のためには重要なことであるが、資料の特性が十分に考慮されていない展示は、文化財の劣化や破損につながることを、理解してほしい。現状の展示は資料の特性を十分に考慮しているとはいえず、保存・管理の機能を果たしているとはいいがたい。 ③ 体験や学習の充実は必要だと思うが、何に繋げるために行うのかを十分に考えたうえで行わなければ、祭り町の負担を増やすだけになってしまう。 ⑤ ハードの施設だけ作っても、学芸員を設置しないことにはソフトが機能しない。 ⑦町によって事情が異なるので、一方的な取組では、かえって混乱を生む可能性もある。祭り町との意思疎通を十分に行ったうえで、取り組む必要がある。
⑦　担い手は曳き手や囃子手より、鬼の演者の育成・継承がより深刻
① 有形文化財の適切な保存は、所有する各町が責任をもってやっていく必要がある と考えます。引退幕を含めて、町で維持できない物については、市への譲渡（有償・無償は要検討）のうえ、市が町の意向に左右されずに管理していくこともやむを得ないと考えます（自分たちで維持・保存できないのに、行政に注文だけ付けるということは認められないと思います)。また、展示は、レプリカでも構わないと考えます。以上のような理由から、市としては〇ではなく△としました。 ② ①と同様、展示は、各町の蔵等で行われることが本来望ましく、市で博物館等の社会教育施設で展示するのは模型で構わないと考えるため、△としました。 ③　体験・学習機会の創出は、各町が主体的に取り組むのを市がアシストしていく形が望ましいと考えたため、市としては△としました。 ④～⑥ 現在のだんじり会館で行われる必要は無く、別の社会教育施設や、サイバー空間での展示・説明も有効だと考えます。 ⑦市の役割として、マッチングをしていくことは重要と考えます。たまたまツテがある市民だけが担い手になれ、そうではない市民は見てるだけ、という現状は、公金を支出して保存振興していく文化のあり方としては、公平感が乏しく不適切だと感じます。

【設問3】

「設問2」で必要・重要であると考える項目に取り組む場所

（単一回答　有効回答者数 5 人）

図　項目別の集計結果



（件）

- ① 「ダンジリ行事を維持・継承していくための活動」を目的とした単独施設として、（施設改修や運用改善を行いながら）今の「だんじり会館」を常設施設として運用すべき
- ② 「ダンジリ行事を維持・継承していくための活動」を目的とした単独施設として、新たな施設を整備すべき
- ③ だんじり以外の文化に関する振興や維持・継承を目的とした取組と融合させ、可能な限り一体的に整備すべき
- ④ 特定の施設は設けず、公民館など既存の場所を活用して取り組むべき
- ⑤ その他（①から④までのいずれにも該当しない）

表　具体的な理由

意見の詳細内容
市全体としては、③が望ましいと考えている。現在、伊賀市にはゲートウェイ的な役割を果たす施設がなく、子どもたちや観光客に対して、市内に多数ある単独施設や街歩きの魅力を十分に伝えられていないと感じている。一方でダンジリ行事の魅力を伝える施設として、祭り町が主体的にかかわる形で、祭り町に②のような施設も必要ではないかと感じている。
中間答申３（４）後半部分 「市全体における文化振興・・・・合理的であると言えます」 当面（3～5 年、現会館の空調が機能するとして）現会館を使用し、③の方向で一体的に整備することを検討
美術博物館構想の中で、だんじり文化も含めて一体的に取り扱われることを期待しています。